

情報リテラシー教育の理念と方法 ―実践のための論点整理―

野末 俊比古

はじめに

講演の趣旨・構成

- ・講演の趣旨（目的）
- ・講演の構成（流れ）

講演の要点（主張）

- ・情報リテラシー教育は「楽しい」
- ・「楽しく」進めることが大事
- ・「使えるものは使う」姿勢を



I 実践に先だって（「そもそも論」の整理・確認）

情報リテラシーとは？

- ・定義するならば「情報を主体的に使いこなす能力」
- ・コミュニティによって「中身」に違い
- ・「問題解決能力」の中核に位置づけ
- ・「図書館リテラシー」も（重要な）要素

情報リテラシー教育とは？

- ・利用者の情報リテラシーの習得・向上・維持を支援する意図的な活動
- ・図書館が行う情報リテラシー教育＝図書館利用教育（指導サービス）
- ・大学図書館は「学習支援」「教育支援」の機能を発揮

「サービス」「教育」の基盤

- ・マネジメントサイクルを踏まえて……「計画(Plan)」→「実行(Do)」→「評価(Check)」→「改善(Action)」
- ・教育学基礎（教職・教育実践）に基づいて……インストラクショナルデザイン
- ・図書館員の「経験」も大切

JLAガイドラインによる手順

- (1) 理念の確認 → (2) 組織の確立 → (3) 現状分析 → (4) 目的・目標の設定 →
- (5) 方法・手段の設定 → (6) 財政の確立 → (7) 担当者の採用・研修 →

(8) 施設設備・教材・広報手段の提供 → (9) 協力体制の確立 → (10) 評価の定着化

理念（目的・使命）の確認（「(1) 理念の確認」にあたって）

- ・めざすのは「自立した情報利用者（学び方を学んでいる）」
- ・そのために「図書館ならではの」「図書館だからこそ」の部分を担当
- ・大学教育における図書館の役割

## Ⅱ とにかく利用者を知る（「(3) 現状分析」にあたって）

学習者（利用者）をとらえる（学生の場合）

- ・「卒業生」像……パンフ、進路データ、…
- ・カリキュラム（授業）……シラバス、課題、教科書、…

※学問分野ごとの「作法」

- ・「平成生まれ」の実態……情報要求、行動様式、…

※高校までの「情報教育」

情報利用行動の理解・分析

- ・情報資源の多様化……Google、GeNii、…
- ・探索行動の特性……ブラウジング、チェイニング、モニタリング、…
- ・検索（探索）機能・様式の変化……「キーワード!?!」、「AND・OR・NOT!?!」、出力の順序・項目、…

利用者の「気持ち」を考えながら

- ・行動（技能・操作）＋ 思考（認知）＋ 心理（感情・情意）
- ・「感情」の自覚・予測……文章化、…
- ・「不安」の軽減……用語の工夫、人的支援のPR、…
- ・「楽しさ（興味）」や「お徳感」の喚起・演出、…

利用者のセグメント化

- ・「ニーズ」によるグルーピング（多層的）
- ・プロフィールの作成など
- ・学生以外にも重要な対象
- ※「ニーズ」と「ディマンズ」、「顕在的（自覚）」と「潜在的（無自覚）」

## Ⅲ 目的を達成するために（「(4) 目的・目標の設定」「(5) 方法・手段の設定」にあたって）

何を教えるのか

- ・情報探索・利用のモデル……ステップごとの知識・技能＋メタ認知＋…
- ・利用者を「主語」にした記述……いわゆるコンピテンシー（ルーブリック）

- ・ACRL や JLA のガイドラインなども参考

#### ガイドラインの「目標」

- ・第一領域は「印象づけ」……「認識」
- ・第二領域は「サービス案内」……「理解」
- ・第三～五領域が「情報探索・整理・表現法」……「理解」して「習得」する

#### 具体化の手順

- ・全体構想……「入学（前）」から「卒業（後）」まで
- ・系統表（カリキュラム）……指導事項を体系化（らせん型）
- ・年間計画（プログラム）……種々の指導機会（授業とも連動）
- ・指導案（シナリオ）

#### 指導の方法・手段は多彩

- ・直接（対面）＋間接（遠隔）
- ・集団（集合）＋個人（個別）
- ・ツール（メディア）の活用……パスファインダ、マニュアル、ポスター、…
- ・日常業務のなかで……OPAC 画面、返却票（しおり）、館報、…

#### 授業との連携・協力・分担

- ・関連なし……図書館独自の講習会など
  - ・学科関連指導……授業に出向いて
  - ・学科統合指導……授業の計画から
  - ・独立科目……情報リテラシー科目など
- ※初年次教育、出前（出張）講座、FD/SD、…

## IV プレゼンテーションに臨んで

### 「シナリオ」を練る

- ・組立て……「導入・展開・まとめ」、「SDS（要約・詳細・まとめ）」、「PREP（結論・理由・具体例・まとめ）」、…

※例題……「身近」、「驚き」、「ご利益」、…

※いわゆる PBL 的な手法も

- ・シナリオ（台本・進行表）……時間配分、セリフ、…
- ・リハーサル……フィードバック、…

### 教材づくりにあたって

- ・説明・作業などと一体で……「どう使うのか」（頭、目、耳、手）

- ・教材は「過不足なく」……必要十分な量・質
- ・特に心理面にも工夫……例えばキャラクター

#### パワーポイントの場合

- ・読みやすさ……大きさ、フォント、配色、分量、書きぶり、…

※例えば「赤い文字」の意味

- ・箇条書きなら5～7項目

※見本は「ワイドショーの芸能情報」!?

- ・配置・アニメーションは「効果・意図」を明確に

#### ハンドアウト（レジュメ）の場合

- ・読みやすさが基本……字数・行数、配置、…
- ・順序・構成（階層）は明確に……大きさ、フォント、字下げ、記号、…
- ・指示のしやすさ、記入のしやすさ（空欄、余白）にも配慮
- ・配付のタイミングも考慮

#### プレゼン（話法）において

- ・「基本」は大切……前（聞き手）を見て、大きな声で、はっきりと（ゆっくりと）、…
- ・変化（メリハリ）をつける……「強弱」、「速遅」、「堅柔」、…
- ・聞き手（動作・思考・感情）にあわせて……例えば「沈黙」も必要
- ・小道具や身振り・手振りも

### V しっかり評価をする（「(10) 評価の定着化」にあたって）

#### 何を評価するのか

- ・評価の対象は「過程」と「結果（成果）」
- ・「目標（指標）」「基準」「過去」などに照らして
- ・指標には「インプット」「アウトプット」「アウトカム」
- ・実は計画段階が大事……マーケティング（ターゲティング）、…

#### どう評価するのか

- ・方法・手段はいろいろ……質問紙、聞き取り、電子メール、テスト、統計・記録、…
- ・「定量的」（数量的）＋「定性的（質的）」……ポートフォリオ、自由記述、…
- ・「発見的」方法も
- ・大切なのは「解釈（価値判断）」

#### 次の展開につなげる

- ・次の計画などに反映……段階的、選択的に、…

- ・できるところから・・・即時、短期的、中長期的、…
- ・PDCA サイクルは多層的・多重的・・・短い/長い、個人/組織、…

## おわりに

### 講演の主張（再掲）

- ・情報リテラシー教育は「楽しい」
- ・「楽しく」進めることが大事
- ・「使えるものは使う」姿勢を

### さらに考えたいこと

- ・情報リテラシー教育の成果を発揮できる図書館
- ・情報リテラシー教育の不要な図書館!?
- ・ノウハウ・教材などの「共有」
- ・大学・社会における図書館のアイデンティティと図書館員の専門性

## 別添資料

- ・拙稿「情報リテラシー教育と大学図書館：『利用教育』から『指導サービス』へ」『図書館雑誌』102(11), 2008, 762-5
- ・拙稿「情報リテラシー教育における図書館員の役割：NII 研修プログラムの背景にあるもの」『短期大学図書館研究』(28), 2009, 23-32
- ・ACRL「高等教育のための情報リテラシー能力基準」（野末俊比古訳）ACRL, 2001（抄）

## 参考文献（別添資料に掲載されているものは除く）

- ・瀬戸口誠「情報リテラシー教育とは何か：そのアプローチと実践について」『情報の科学と技術』59(7), 2009, 316-21
- ・長澤多代「アラム・カレッジの図書館が実施する学習・教育支援に関するケース・スタディ」『Library and Information Science』(57), 2007, 33-50.
- ・三輪眞木子『情報検索のスキル：未知の問題をどう解くか』（中公新書）中央公論新社, 2003.
- ・三浦逸雄ほか『大学改革と大学図書館の学習・教育支援機能：アンケート調査結果』東京大学大学院教育学研究科図書館情報学研究室, 2002. [http://www.cl.aoyama.ac.jp/~tnozue/ugl/]
- ・拙稿「『情報リテラシー教育』とは何かを考えるにあたって」『情報管理』52(3), 2009.6, 168-71.
- ・拙稿「情報リテラシー：デジタルデバイスとのかかわりを改めて考える」三浦逸雄監修『図書館情報学の地平：50のキーワード』日本図書館協会, 2005, 281-6.
- ・拙稿「特論 1 情報社会と学校：情報活用能力の育成を中心に」鈴木真理・佐々木英和編『社会教育と学校』学文社, 2003, 197-209.

## 講師紹介

のすえ・としひこ・・・青山学院大学教育人間科学部准教授。学術情報センター研究開発部助手、文部省生涯学習局社会教育官、国立国会図書館図書館研究所調査員、青山学院大学文学部専任講師・助(准)教授、国立情報学研究所客員助(准)教授などを経て、現職。

社会活動として、日本図書館協会図書館利用教育委員会委員長、新宿区新中央図書館等基本計画策定委員会副会長、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター「インターネットを活用した遠隔社会教育研修の在り方に関する調査研究委員会」委員、日本図書館情報学会研究委員、東京都立図書館協議会委員、国立国会図書館図書館情報学情報誌編集企画員、調布市図書館協議会委員など。

著書として、『情報探索と情報利用』（勁草書房、共著、2001）、『学校図書館メディアの構成』（樹村房、共著、2002）、『情報メディアの活用』（樹村房、共著、2002）、『社会教育と学校』（学文社、共著、2003）、『変わりゆく大学図書館』（勁草書房、共著、2005）、『学校図書館メディアセンター論の構築に向けて』（勉誠出版、共著、2005）、『図書館情報学の地平』（日本図書館協会、共同編集・執筆、2005）、『専門資料論』（日本図書館協会、共編著、2005）、『情報 A（高校検定教科書）』（教育出版、共著、2007）など。

専門分野は図書館情報学・教育学、関心領域は情報リテラシー教育。静岡県生まれ。

E-mail: tnozue@ephs.aoyama.ac.jp; Fax: 03-3409-1528